

### 急性期退院時アウトカム

- ① 日常生活動作が自立する  
：杖または独歩が可能である  
：ADLスコア 点以下は、基本的に在宅
- ② 感染の徴候がない  
：体温 37.5 度以下  
：患部の発赤・腫脹・熱感・浸出液がない
- ③ 神経障害がない  
：患肢のしびれ・麻痺がない
- ④ 退院後の生活の注意点を知っている  
：禁忌肢位  
：日常生活動作（運動・入浴・排泄）
- ⑤ 異常時の連絡方法について知っている（日勤帯：外来、夜間：病棟）

### 急性期病院の退院基準

急性期治療が終了している

### 地域連携パス適応

在宅に向けたリハビリテーションが必要である

### 回復期病院の退院基準

予定していた治療計画が終了

自宅復帰あるいは施設入所の準備が整った

### 地域連携パスのルール

- ① 在宅になったらパス終了
- ② 急性期病院へ転院したらパス終了
- ③ 死亡でパス終了

### 連携時に必要な書類

- ・ 大腿骨頸部骨折地域連携パス（看護サマリを含む）
- ・ 診療情報提供書：既往歴・内服薬
- ・ リハビリサマリ
- ・ ADL 点数表
- ・ 患者用パス



## 大腿骨頸部骨折疾患連携のプロセス

急性期：OP 前日より急性期パスを適応し、患者用パス（診療計画）で説明する  
OP 後 1 週間目にリハ評価をかねて、回復期への適応があるかどうか  
を評価する。\*→ パスカンファレンス

適応の場合は、地域連携部をとおして回復期病院へ依頼を出す。

：回復期病院での審査に必要な書類： 患者情報・日常生活動作表

### \* 大腿骨頸部骨折術後、予後（基準）

在宅： 第 1 選択

回復期： ADL 回復への専門的なりハビリの必要がある

療養型：

老人保健施設

- ・ 転院先が決定した場合、地域連携部より地域連携パス記入のお知らせを院内メールで担当者に伝える。もしくは、
- ・ 各担当者は、転院前日までに夫々の担当箇所テンプレートを入力する。
- ・ 連携パスの最終記入およびチェックは、クリニカルパス専任がおこない、転院当日までに連携パス原本を病棟クラークへ渡す。
- ・ クラークは、連携パス原本を電子カルテへスキャナした後、患者・家族へ渡す。コピーも一部とり、患者フォルダへ保管する。
- ・ 転院当日、医事課へクラークが連絡をいれる。（コストもれを予防するため）

